

平成21年度高知県公立学校教員採用候補者選考審査

筆記審査（専門教養）

中学校 国語 高等学校 国語

特別支援学校 中学部・高等部 国語

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 特別支援学校 中学部・高等部 国語の受審者は、選択問題については中学校の問題に答えてください。
- 3 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 4 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
 - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する ☐ の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。

マーク例 (良い例) ☒ (悪い例) ☒ ☒ ☒

- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

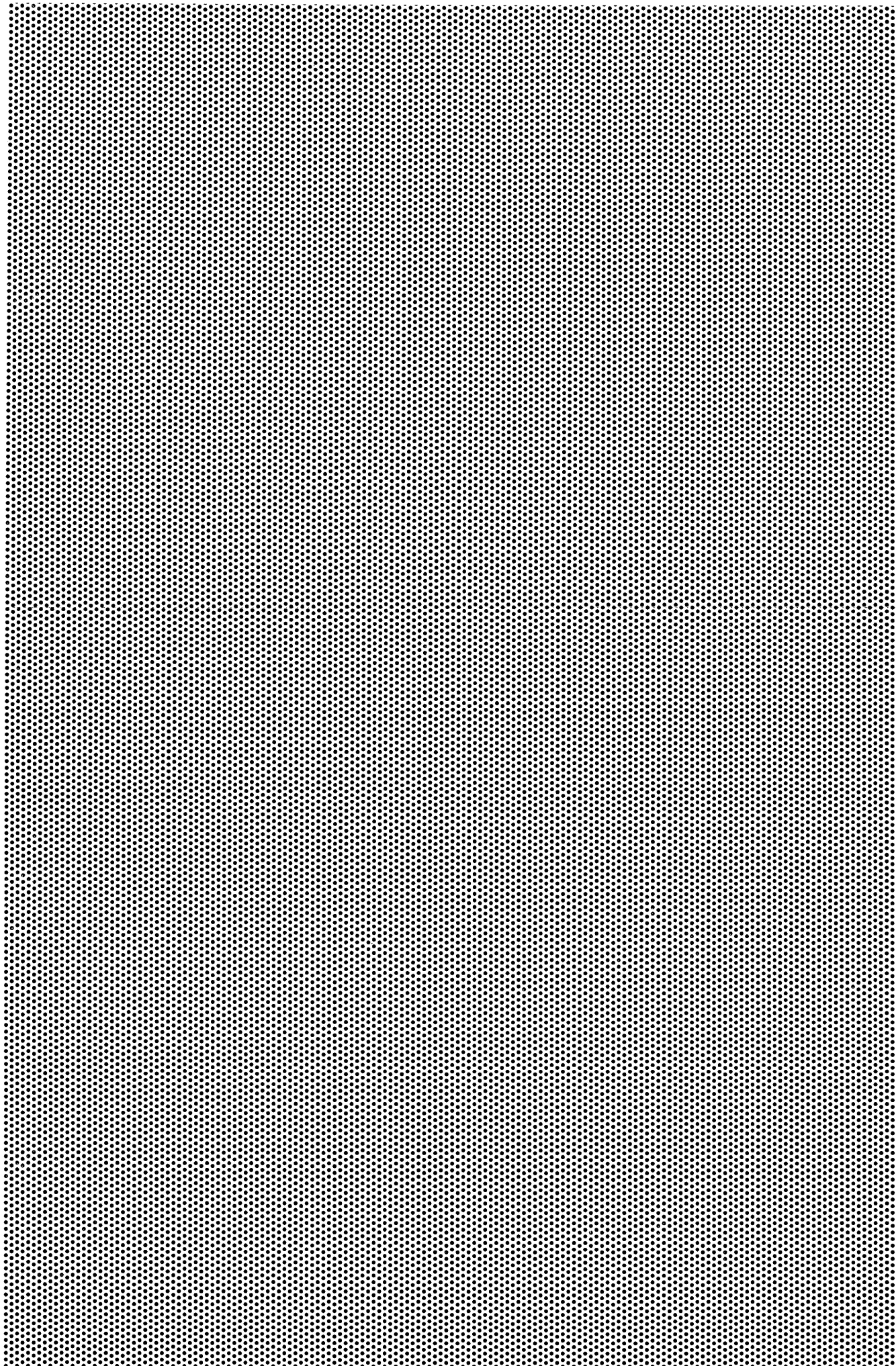
また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0	☐ 0
☒ 1	☐ 1	☐ 1	☐ 1	☐ 1
☐ 2	☒ 2	☐ 2	☐ 2	☐ 2
☐ 3	☐ 3	☒ 3	☐ 3	☐ 3
☐ 4	☐ 4	☐ 4	☒ 4	☐ 4
☐ 5	☐ 5	☐ 5	☐ 5	☒ 5

記入例

(受審番号12345の場合)

※本冊子の裏表紙に、【注意事項】の続きが記載されています。本冊子を裏返して、必ず読んでください。まだ、問題冊子は開かないでください。



第1問 次の1～7の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中から一つずつ選びなさい。

(1) 会社のシユウシがプラスに転じる。

ア

- a シハツ列車が出発する。
- b 彼の意見をシジする。
- c 先輩のいる大学をシボウする。
- d 教師のシテンから発言する。
- e 先生のシジ通りに行動する。

(2) この値段は庶民のコウバイリヨクの限度である。

イ

- a コウツウの便が悪い。
- b 建物のコウゾウに欠陥がある。
- c この雑誌をコウニユウする。
- d 治療のコウカがあがる。
- e コウキョウの施設を大切にする。

(3) 機械の状態をテンケンする。

ウ

- a 初任者対象のケンシユウを受ける。
- b 費用をケンヤクする。
- c ヘンケンを持つことはよくない。
- d 大腸菌がケンシュツされた。
- e 沈黙を守ることがケンメイである。

(4) どんなときも健康がカンジンカナメである。

エ

- a 親のカンシが厳しい。
- b 客足の増減にビンカンになる。
- c 内政にカンショウしてはいけない。
- d 重大な事件にカンヨしている。
- e カンゾウの機能が低下している。

2 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 読み方の間違っている熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。 オ

- a 折衷 せつちゅう b 模索 もさく c 記載 きさい d 措置 しよち e 遂行 すいこう

(2) 読み方がどちらも音読みである熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 親身 b 素顔 c 問屋 d 夕刊 e 曖昧

(3) 読み方がどちらも訓読みである熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 役場 b 津波 c 派手 d 重箱 e 台所

3 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 「巧言令色」と対照的な意味の四字熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 剛毅木訥 b 才色兼備 c 豪放磊落 d 八方美人
e 優柔不断

(2) 「堰を切ったように」ということばの使い方として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ケ

- a 私は堰を切ったように心が痛んだ。
b 私はいたたまれずに堰を切ったようにその場から立ち去った。
c 人が堰を切ったようになだれ込んできた。
d 景気は堰を切ったように停滞しはじめた。
e 人々はそのときだけは堰を切ったように黙っている。

- (3) ことわざ「魚心あれば水心」の意味として適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

コ

- a 相手の悪巧みをひそかに察知して、それに同意し乗っていくということ。
- b 相手が自分に好意をもてば、自分もそれに応じる用意があるということ。
- c 相手の気持ちと自分の気持ちがちぐはぐで、思いがすれ違ってしまいうこと。
- d 人生はそれほど心配する必要はなく、何とかうまくいくものだということ。
- e 人はそれぞれ違う価値観をもっているの、お互いを尊重すべきだということ。

- 4 誤った使い方をしている敬語表現を、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

サ

- a 先生のお父様を存じ上げています。
- b 先生が私の家にお越しく下さいました。
- c 先生の論文を拝読致しました。
- d 先生、冷めないうちにお茶をいただいでください。
- e 先生、私がお食事を持って参りましょう。

- 5 次の (1)・(2) の文中に傍線で示したことばについて、文法的説明として適切なものを、あとの a ～ e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) いっしょに彼の個展を見よう。

シ

- a 五段活用動詞の未然形
- b 下一段活用動詞の未然形
- c 下一段活用動詞の連用形
- d 上一段活用動詞の未然形
- e 上一段活用動詞の連用形

- (2) あらゆる品物がそろっている。

ス

- a 形容詞
- b 副詞
- c 感動詞
- d 接続詞
- e 連体詞

- 6 次の文中に傍線で示した部分について、文法的説明として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

セ

夜ともいはず、昼ともいはず、逃げていにけり。

- a 「い」は上二段活用動詞、「に」は格助詞、「けり」は過去の助動詞。
- b 「い」は上二段活用動詞、「に」は完了の助動詞、「けり」は詠嘆の助動詞。
- c 「いに」はナ行変格活用動詞、「けり」は過去の助動詞。
- d 「いに」は上二段活用動詞、「けり」は過去の助動詞。
- e 「いに」は四段活用動詞、「けり」は詠嘆の助動詞。

- 7 萩原朔太郎の詩集を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ソ

- a 氷島
- b 邪宗門
- c 若菜集
- d 春鳥集
- e 落下傘

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

近代以前の古いヨーロッパ社会では、人々に「子供」という時期がなく、人間ははじめから「小さい大人」とされた。それも、ひとりで自分の用を足すに至らないもつとも弱い、短い時期だけに限られ、自分でなんとか用が足せるようになると、「若い大人」として大人たちと一緒にされ、仕事も遊びも大人たちと共にするようになる。そうすることをおして、大人たちのすることを手伝いながら、生きていく上に必要な知識を学んでいた。当時の社会では子供は——良家の子供でも——下働きや家事の手伝いをし、家庭内で大事に育てられるものなどとは、およそ考えられなかった。

それだけではない。子供が幼くして死んだ場合、人々は悲しまなかったわけではないが、かけがえのない存在とは考えず、(②)、すぐ代わりの子供が生まれてくるように思われていた。(③)子供は、まだ匿名状態の、とりかえのきくものであったのである。子供の服装にしても、近代以前の社会では、特定のものはなく、子供は、大人と同じ服装をさせられていた。

アリエスが明らかにしたこのようなことを読むと、私たちは、一方では子供についての近代的な(④)が破られるとともに、複雑な気持になる。というのは、アリエスが近代以前のヨーロッパ社会のうちに見ている子供の姿は、柳田国男(たとえば『ことも風土記』一九四二年)などによつて私たちが知っている近代以前の日本の社会での子供の姿と重なるところが多いからである。子供が社会で現代のような特別扱いを受けなかったこと、年上の仲間から社会生活のルールを学ぶことが多かったこと、等々である。

それどころか、かつての日本では——柳田にふれて山口昌男氏(『子供の世界』から「大人の世界」へ)一九八〇年)が強調しているように——子供はむしろ神に近い固有な存在としてみとめられ、独自の世界をもつたものと見なされていた、ということがある。すなわち、多くの社会で子供は神様であると考えられたが、古来わが国の社会でもそうだった。ただし、ふつうの生活のなかでは、こうした考え方は直接表面化することなく、潜在的に神であると考えられた。

そして柳田の示したように、一見なんの意味もないようにみえる子供の遊びが、その源に遡ってみると、神を祀る行事であつた例が少なくない。つまり子供は、その悪戯も含めた無邪気さのゆえに、神がみずからを顕して、人間の世界に自分の意志を伝える仲介者として使いやすくと考えられていた。子供の参加した多くの行事が、神事への関心の衰退とともに、遊戯として片隅にとり残されたのであつた。

このようにわが国では子供は神に近い存在と見なされていた。しかしそれは、ルソーが『エミール』などのなかで言っている、自然の善性と結びついた善良さと純粹さ、という捉え方とはちがうものだ。ルソーによるこのような捉え方は、合理主義的な近代の知の支配のなかで当時としては画期的なものであつたけれども、今ふりかえてみると、むしろロマン主義的な近代の「子供神話」の源流の側面をもっている。しかもまた、それは、《自然は、子供たちが大人になる前に子供であることを望んでいます》^⑤ということばが示すように、子供を大人の前段階としてのみ捉える発達心理学の考え方とも結びつくのだ。

かつての日本で子供が神に近いと見なされていたということは、子供がただ純真だとか無垢だとかいうのではなしに——荒ぶる神でもあるものとして——同時に荒々しく残酷であること、つまり根源的自然をも体現していることを意味している。ともあれ、いま私た

ちにとって必要なことは、子供の世界あるいは宇宙を大人の眼から見た規準やあるべき姿のなかに閉じこめるのではなく、そうした宇宙の独自性と始源性をトータルに捉えることであろう。そしてそのとき、子供の世界は大人にとっていわば「異文化」の世界として現れることになる。

^⑦ 本田和子氏『異文化としての子ども』(一九八二年)も言うように、子供への私たちのまなざしが、科学的装いをもった発達心理学的な子供観の拘束から自由になるとき、子供は私たち大人にとって、その他者性をあらわにする。⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵

4 傍線部⑤「子供は神に近い存在と見なされていた」とあるが、このような判断が成り立つ根拠として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 エ

- a 子供の遊びが神を祀る行事であった例が少なくないこと。
- b 子供は悪戯も含めた無邪気さをもっていたこと。
- c 神の意志を伝える仲介者として使いやすくと考えられていたこと。
- d 子供が参加した多くの行事にあって神事への関心が衰退したこと。
- e 子供が参加した多くの行事が遊戯として片隅に取り残されたこと。

5 傍線部⑥「根源的自然をも体現している」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 オ

- a 宇宙の始まりと共に存在する生命的なエネルギーが、世界の中に満ちあふれているということ。
- b 世界の秩序を外側から再構築する力動的な宇宙の力を、子供たちが見せつけているということ。
- c 大人の誰にでも存在している純真無垢な神性が、子供によって示されているということ。
- d 宇宙の非情さと過酷さがもっている荒々しい力を、社会の制度の中に具現化しているということ。
- e 大人の眼による規準には収まらず、子供が宇宙の独自性と始源性を現しているということ。

6 傍線部⑦「まなざし」は比喩的に用いられた表現である。これを言い換えたことばとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 カ

- a 見解 b 視野 c 診断 d 観察 e 眼光

7 傍線部⑧「その存在自体が秩序を問いかえしている」の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 キ

- a 子供は大人の文化から疎外された者の立場から常によりよい文化のための提言をしているということ。
- b 子供は大人がつくる文化的秩序が大人のための人為的な虚構であることを知らしめる存在であるということ。
- c 子供の存在自体が大人の社会に失われつつある子供の文化を取り込むことを常に要求しているということ。
- d 子供は科学的な思考によってつくられた大人の価値基準を外側から壊す非科学的な逸脱者であるということ。
- e 子供は正体不明な存在として出発しながらやがて大人として文化をつくっていく役割を担っているということ。

8 文章中の（ ⑨ ）に当てはまることばを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。
ク

- a 不安 b 発達 c 自然 d 知識 e 秩序

9 文章中の（ ⑩ ）に当てはまることばを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。
ケ

- a 子供の発達に即した子供の場所を用意することである。
 b 教育が子供の他者性に合わせた実質を獲得することである。
 c 子供をはっきり他者あるいは異文化として見なすことである。
 d 子供の本来の姿を取り込んだ秩序を形成することである。
 e 文化が異文化としての子供を受け入れ和解することである。

10 傍線部⑪「子供の主題化は、その場合でさえも子供不在になる陥穽に陥りやすい」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。
コ

- a 子供を主題化するとき、自分の子供時代はすでに過ぎ去って思い出せないの、どうしても現在の大人の秩序を規準にして考えてしまうから。
 b 子供を主題化するとき、神事の意味が薄れてしまった文化的秩序を持つ現代においては、子供を神として捉える学問的観点は成立しないから。
 c 子供を主題化するとき、近代の科学的見地から課題を立てて論じようとするので、子供の遊戯の世界は非科学的なこととして退けられるから。
 d 子供を主題化するとき、無意識のうちに子供の視点を無視し、そのときの文化的秩序や大人の規準に基づいて主題化そのものがなされるから。
 e 子供を主題化するとき、異文化としての子供について論じるにもかかわらず、大人の学問は子供の考えや意見を聞こうとはしないから。

第3問 次の本文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今日は、親しらず子しらず・犬もどり・駒返しなど云、北国一の難所を越てつかれ侍れば、枕引よせて寝たるに、一間隔て面の方に、若き女の声二人斗ときこゆ。年老たるおのこの声も交て物語するをきけば、越後の国新潟と云所の遊女成し。伊勢参宮するとて、此関までおのこの送りて、あすは古郷にかへす文した、めて、はかなき言伝などしやる也。『白浪のよする汀に身をはふらかし、あまのこの世をあさましう下りて、定めなき契、日々の業因、いかにつたなし』と物云をきくく寝入て、あした旅立に、我くにもむかひて、『行衛しらぬ旅路のうさ、あまり覚束なう悲しく侍れば、見えがくれにも御跡をしたひ侍ん。衣の上の御情に、大慈のめぐみをたれて結縁せさせ給へ』と泪を落す。不便の事には侍れども、「我くは所々にてとまる方おほし。只人の行にまかせて行べし。神明の加護かならず恙なかるべし」と云捨て出つ、哀さしばらくやまざりけらし。

⑤ 一家に遊女もねたり萩と月

曾良にかたれば、書とゞめ侍る。

(松尾芭蕉『奥の細道』より)

1 傍線部①「つかれ侍れば」の中の助詞「は」について、それと同じ用法を含むものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

- a 田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ
- b 名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな
- c 心あてに折らばや折らむ初霜のおきまどはせる白菊の花
- d 吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ
- e 見せばやな雄島のあまの袖だにも濡れにぞぬれし色はかはらず

2 傍線部②「はかなき」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

イ

- a あさはかな
- b 意味のない
- c 悲しい
- d よわよわしい
- e ちよつとした

3 傍線部③「あさましう下りて」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a ひどく落ちぶれて
- b 卑怯にも卑下して
- c はなはだ軽蔑して
- d あまりのことにあきれ果てて
- e 興ざめしながらも生き続けて

4 傍線部④「不便の事」の内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

工

- a 目的地まで歩いて行かなければならないこと。
- b 女だけで目的地まで行かなければならないこと。
- c 身の周りの世話をしてくれる人がいないこと。
- d 仏の慈悲から見放されていること。
- e 故郷からの返事がもどってこないこと。

5 本文は次にあげる和歌を踏まえて書かれているといわれている。()に入る最も適切なことばを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

オ

しら浪のよするなぎさによをつくすあまのこなれば ()

- a 夜のみは見ん
- b 宿もさだめず
- c 花を見ましや
- d 声をきかせむ
- e 若菜つみてむ

6 傍線部⑤「一家に遊女もねたり萩と月」の句を説明したものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 萩と月を取り合わせることによって、遊女と俳諧師である自分とともに華やかな風流人としてよんでいる。
- b 萩によって素朴な遊女の美をよみ、一方で月によって高く悟った風流人の静かな慈愛に満ちたまなざしをよんでいる。
- c 遊女といっしょの宿に泊まった不本意な出来事を、萩と月の美しいイメージで風流な出来事へと変化させてよんでいる。
- d 遊女の身の上と風雅を求める自分の身の上との取り合わせを、萩と月との取り合わせに重ねてよんでいる。
- e 萩と月を遊女と自分に見立てて、ひっそり生きている遊女の姿に風雅を見出してよんでいる。

7 江戸時代の俳人についての説明として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 松永貞徳は機知に富んだ作風で知られ、それは心付けといわれた。
- b 松尾芭蕉は連句を否定し、発句のみを価値あるものとした。
- c 井原西鶴は談林派に属し、幽玄、閑寂の境地を拓いた。
- d 与謝蕪村は音楽的な韻律美を追究し、革新的な俳諧を目指した。
- e 小林一茶は俗語や方言を用い、現実味ある生活感情を率直に表現した。

第4問 次の本文を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、訓点を省いた部分がある。

有^{リテ}亂^ニ君^一無^ク（A）、^①有^ニ治^一人無^ク治^ハ法[。] 羿^ノ之^ハ法^ハ非^レ亡^ニ也、
而^モ羿^ハ不^レ世^ラ中[。] 禹^ノ之^ハ法^ハ猶^ホ存^{スルモ}、而^モ夏^ハ不^レ世^{タラ}王[。] 故^ニ法^ハ不^レ能^ハ
獨^リ立^{ツコト}、類^ハ不^レ能^ハ自^ラ行^{フコト}、得^{レバ}其^ノ人^ヲ則^チ存^シ、失^{ヘバ}其^ノ人^ヲ則^チ亡^ニ。
法^{ナルハ}者^ハ治^ス之^{（B）}也、君^{ナルハ}子^ハ者^ハ法^ス之^{（C）}也。故^ニ有^ニ
君^{ナリ}子^{ナリ}、則^チ法^モ雖^モ省^ク、足^{ルモ}以^テ徧^{キニ}矣[。] 無^ク君^{ナリ}子^{ナリ}、則^チ法^モ雖^モ具^ハ、
失^レ先^ニ後^ニ之^ラ施[。] 不^レ能^ハ應^ズ事^ノ之^ラ變[。] 足^レ以^テ亂^ス矣[。] 不^レ知^ラ
法^ノ之^ラ義[。] 而^レ正^ス法^ノ之^ラ數[。] 者^ハ、雖^モ博^ク傳^{ヘラ}臨^{メバ}事^ニ必^ズ亂^ル。
故^ニ明^ニ主^ニ急^ニ得^{ルコトヲ}其^ノ人^ヲ、而^レ闇^ニ主^ニ急^ニ得^{ルコトヲ}其^ノ執[。] 急^ニ得^{ルコトヲ}其^ノ人^ヲ、
則^チ身^{シテ}佚^{シテ}而^レ國^ヲ治^{マリ}、功^ニ大^ニ而^レ名^ニ美^ニ、上^ハ可^ク以^テ王^{タル}、下^ハ可^ク以^テ霸^{タル}。
不^{シテ}急^ニ得^{ルコトヲ}其^ノ人^ヲ、而^レ急^ニ得^{ルコトヲ}其^ノ執[。] 則^チ身^{シテ}勞^{シテ}而^レ國^ヲ亂^レ、
功^{シテ}廢^{シテ}而^レ名^ニ辱^{シテ}、社^ニ稷^ニ必^ズ危^シ。故^ニ君^ニ人^ハ者^ハ、勞^{シテ}於^ニ索^ニ之[。]
而^ス休^ス於^ニ使^ニ之[。] 書^ニ曰^ク、唯^ニ文^ニ王^ニ敬^{シテ}忌[。] 一^ニ人^ニ以^テ擇[。]
此^ヲ之^レ謂^{ヘル}也[。] （『荀子』君道篇より）

羿||人名、弓の名人。禹||夏王朝の最初の天子。執||勢、権勢地位。
佚||逸に同じ。楽をする。書||書経。文王||周王朝の天子。

1 (A) に入ることばを、次の a～e の中から一つ選びなさい。 ア

- a 君子 b 治國 c 社稷 d 亂國 e 獨立

2 (B) (C) に入る文字の組み合わせとして適切なものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。 イ

- a B—先 C—後 b B—端 C—原 c B—上 C—下
d B—王 C—霸 e B—勞 C—休

3 傍線部①「有治人無治法」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a 人を治めることはできても、法律や制度を支配することはできない。
- b 王や君子が存在していれば、法律や制度は必ずしも必要ではない。
- c 国を治めるのは人であって、法律や制度が治めるわけではない。
- d 政治家と法律家は一体であり、そうでなければ法治国家は成り立たない。
- e 政治家はいつの世にも存在するが、法律家はめったに存在しない。

4 傍線部②「不能應事之變、足以亂矣」のよみ方として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a おうずることあたはざることのへんじて、たるにらんをもつてす
- b あたはざればことのへんにおうじ、たりてもつてみだる
- c おうずるにあたはずしてことはへんじ、たりてもつてみだる
- d ことにおうずることのへんじ、もつてみだるにたることあたはず
- e ことのへんにおうずることあたはず、もつてみだるにたる

5 傍線部③「明主急得其人、而闇主急得其執」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 賢明な君主は人物を重視するが、愚かな君主は権勢を重視する。
- b 朝には主君は人を求めるが、夜には権勢を求めるようになる。
- c 明るい性格は友を得るが、暗い性格は権勢しか得られない。
- d 目が利く君主は人物を見抜くが、目の悪い君主には権勢しか見えない。
- e 開明な君主には人が集まるが、閉鎖的な君主には地位しか与えられない。

6 傍線部④「一人以擇」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 一人で友人を選ぶ
- b 一人の友人を選ぶ
- c 一人で賢者を選ぶ
- d 一人の賢者を選ぶ
- e 一人で居ることを選ぶ

(選択問題 中学校)

第5問 次の1～5は、平成十年十二月告示の中学校学習指導要領「国語」の記述内容である。
ア イ ウ エ オ に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1 自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい ア を選び出すこと。

a 事柄 b 相手 c 方法 d 話題 e 語句

2 伝えたい事実や事柄、 イ 及び自分の考えや気持ちを明確にすること。

a 内容 b 質問 c 疑問 d 問題 e 課題

3 目的をもつて様々な文章を読み、必要な ウ を集めて自分の表現に役立てること。

a 情報 b 語彙 c 話題 d 方法 e 用例

4 抽象的な エ などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。

a 思想 b 概念 c 思考 d 論理 e 理念

5 字形、文字の オ、配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。

a 濃さ b 勢い c 大きさ d 数 e 印象

(選択問題 高等学校)

第5問 次の1～5は、高等学校学習指導要領 国語(平成十一年告示)における「国語総合」の「内容」に示されている事柄である。
 合」の「内容」に示されている事柄である。
 あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

ア

オ

に該当するものを、

1 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の **ア** や考えを尊重して話し合うこと。

a 意見 b 気持ち c 立場 d 態度 e 関心

2 論理的な **イ** を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。

a 構成 b 文脈 c 筋道 d 表現 e 展開

3 優れた表現に接してその **ウ** を考え、自分の表現に役立てること。

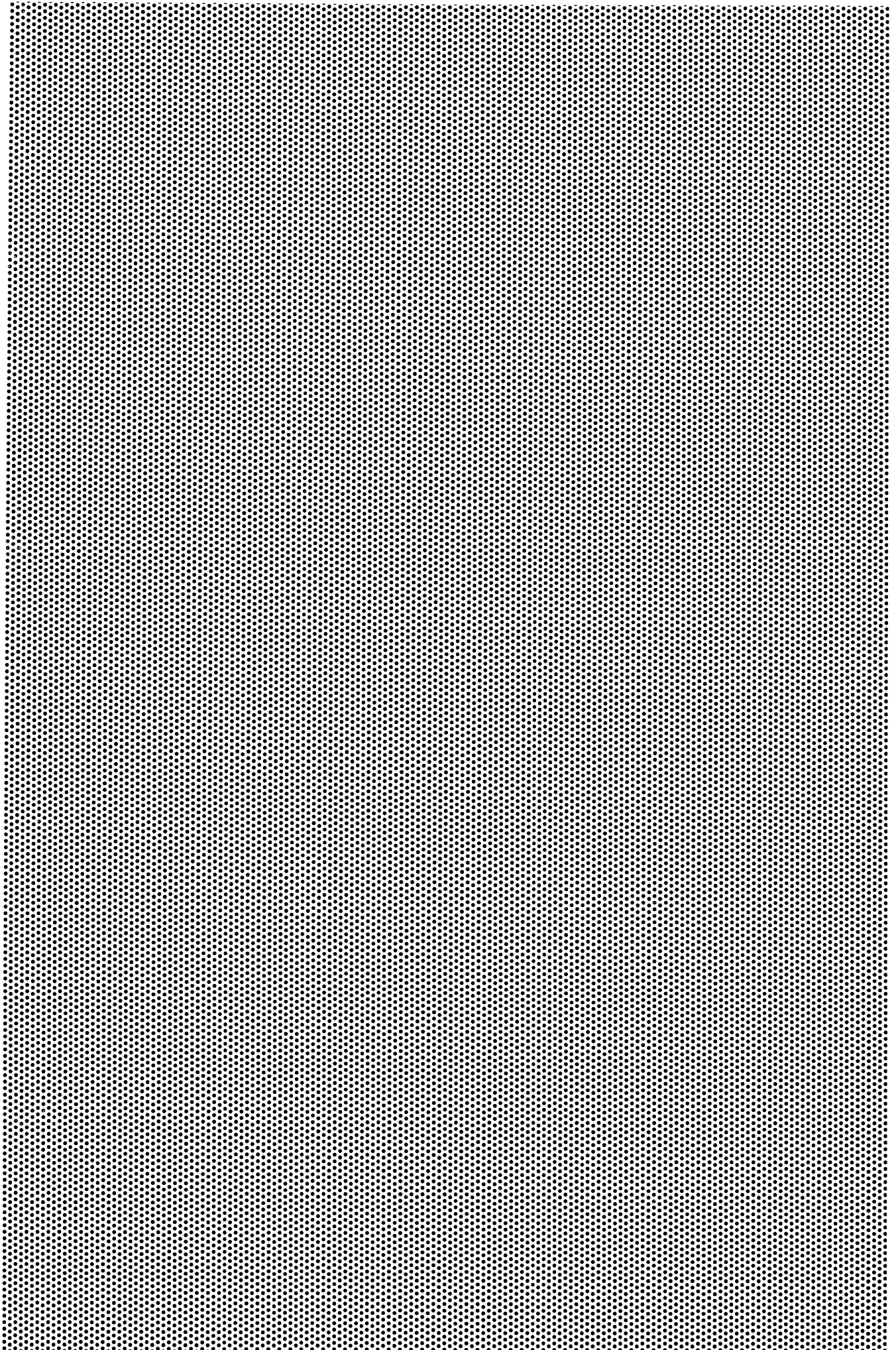
a 技法 b 効果 c 構造 d 特色 e 条件

4 文章の内容を **エ** に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。

a 主題 b 要旨 c 表現 d 叙述 e 内容

5 国語の成り立ちや特質、言語の **オ** などを理解すること。

a 機能 b 役割 c きまり d 規則 e 仕組み



- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄の記号をマークしてください。例えば、解答記号 と表示のある問いに対して **b** と解答する場合は、下の（例）のように **ア** の解答欄の をマークしてください。

（例）

ア	a	<input checked="" type="text" value="b"/>	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	<input "="" type="text" value="="/>	+
---	--------------------------------	---	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------

なお、一つの解答記号に対しては、解答欄の記号を二つ以上マークしないでください。

- 6 第5問は選択問題です。
- 7 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。受審者は、審査室内のすべての解答用紙（マークシート）が回収された後、監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。

中学校 国語 高等学校 国語 / 特別支援学校 中学部・高等部 国語

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]